

南河内の地域芸能「にわか」の伝承に関わる普及活動

藺田 郁

■活動内容

大阪府の南河内地域で伝承される芸能「にわか」の伝承活動を映像、音声に収め、それらを元に地域の伝承活動の活性化を図る。芸能の保存記録だけでなく、映像を素材にした上演会等を開催し、「にわか」の芸能継承において、映像技術が伝承そのものにつながる活動・イベントを実施して、芸能に対する地域の人々の関心を促進させた。

■コンセプト・ねらい

大阪の南河内地域に伝承される芸能「にわか」の普及活動を、地域の住民とともに進め、地域住民が主体となる活動形態の土台を作る。地域住民への周知を目指して、単なる芸能上演だけでなく、上演に関わる人々の交流・参加を促し、地域社会の活性化を進める。

■活動実績

昨年収録した秋祭りの映像を新たに編集しなおして映像作品を制作し、6月に富田林市内で、地域の人々を対象とした映像上演会を開催した（「にわか風景 祭り・人々 2024」）。10月には毎年開催される祭りでの「にわか」上演の映像を記録した。撮影の対象は、前年まで一つの地区のみを対象としていたが、今回は、複数の地区を対象に行った。これらの映像記録を編集し、芸能伝承における地域交流が促進できるような映像素材を制作した。また12月には、富田林市の小学校において「にわか」を題材とした課外授業を行った。この授業では、上記の制作した映像を教材として使った。

1月には富田林市地域およびその周辺においてフィールド調査取材を行い、「にわか」と関連する地域内の映像を収録した。またそれに併せて、「にわか」上演と関連する各地域の写真などを收拾した。さらにこれらの収集した映像、画像を素材としたイベント（にわか上演と対談「地域の芸能と映像：映像応用による『河内にわか上演』」）を大阪大学中之島センターで開催した。本イベントでは、現地で取材した映像（現地の神社の映像など）を背景に実際の「にわか」を上演するという試みを実施した。また上演の間には古い写真を会場に投影し、イベントの参加者や関係者とともに、「にわか」の伝承や地域の交流について対話した。

その他、大阪の北御堂芸術祭に出演した際の「にわか」の映像も収めた。

■成果・効果

映像の上演会（6月実施）においては、映像を通して地域の人々に普段の祭りと異なる姿を紹介することができた。上映中には、映像に収まる地域の人々（参加者とも関わりある人々）に対するコメントなどが参加者から見られ、各地域に対する芸能伝承への参画意識が高まっていることを確認できた。

祭りの映像記録は昨年から実施しており、今年度は撮影の対象を複数の地区に増やした結果、それが各地域の芸能伝承に対するモチベーションへと繋がった。また小学校では、「にわか」の映像を用いることで、児童らの関心がより自分たちの地域に向かっていることが見出せた。

3月に開催した映像を使った「にわか」の上演会では、映像を使った上演の仕組み自体が新たな芸能の伝承となりうることを、参加した関係者が実感できた。また地域の写真を見ながら行われた登壇者と参加者との対話では、上演会場を「にわか」と共に地域への記憶を確認する場として機能させ、「にわか」共有の新たな仕組みを作ることができた。

北御堂芸術祭の映像記録は、「にわか」の伝承活動が地域の外に結びつくものとなり、その効果が今回参加した演者だけでなく、別の地域の参加意識に繋がっていることが確認された。

今回の試みは、映像の共有範囲や上演回数などが限定されているが、これらの取り組みを拡げていくことで、地域芸能「にわか」への関心や芸能伝承への参加意識が増える可能性のあることが確認できた。

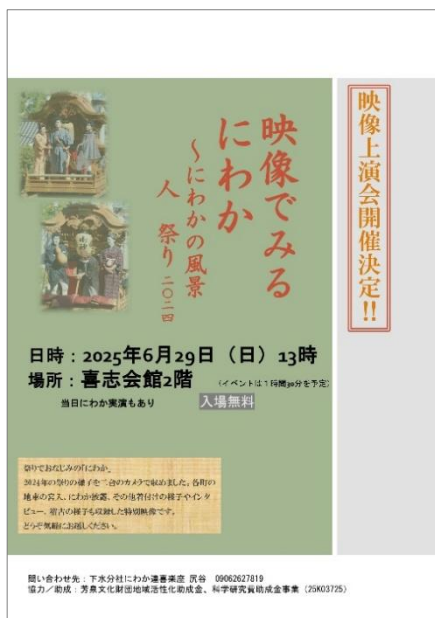
■今後の展開

事業活動に関わった地域の人々は、これまでの芸能伝承の方法とはやや異なる、映像を通した芸能伝承に参画したが、今後は、その取り組み自体を地域芸能「にわか」を伝承していくための一つの方法として、より多くの人に共有して、拡げていくことが考えられる。

この取り組みが単なる保存のための映像記録としてだけではなく、芸能伝承そのものとなりうることは、上記の活動成果で示したように、実施した事業に関わった地域の人々に共有されている。ただし、それは今回だけで十分に達成されたわけではない。今後、映像という素材を芸能伝承のなかに新たに組み込むことが、引き続き地域のなかで求められるならば、伝承活動を「自律的」に動かすことができるための、地域内外の人々とのさらなる協力体制が必要であると思われる。

今回の取り組みでは、制作した映像を多様な世代が集まる地域の公的機関において活用することは、あまり出来ない。たとえば、映像は小学校でも課外授業として活用できたが、このような公の場での映像の共有は、今後より一層拡げていくことが必要であろう。また、映像を使った上演も、様々な公的な場所において実施することで、より多くの世代が芸能伝承への関心を持つことに繋がると思われる。

映像による「にわか」を保存記録ではない形で地域へ拡げていく仕組みは、地域の様々な機関（主に公的な機関）と協力して進めていくことで、今後の「にわか」伝承・普及の柱の一つになりうると考えている。



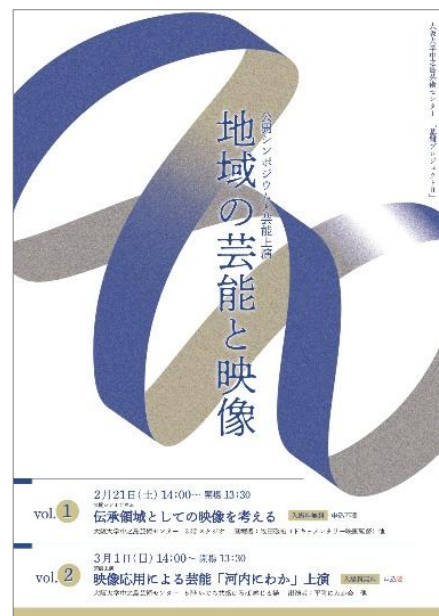
映像上演会チラシ（6月）



映像応用による「にわか」上演（3月）



映像応用による「にわか」上演（3月）



イベントチラシ（3月）



北御堂芸術祭での「にわか」上演の映像記録（3月）